

# 住民支え合いマップ講座

## ～マップを用いて地域の支え合いを考える～

平成 25 年 12 月 25 日、かがやきひろば安茂里を会場に、駒ヶ根市社会福祉協議会事務局次長の片桐美登さんを講師にお迎えし、住民支え合いマップ講座を開催。当日はコーディネーター講座受講者をはじめ、県内市町村社協職員、安茂里地区のケアマネージャーや民生児童委員など 55 人が参加しました。

住民支え合いマップは、人のつながりや支え合いなどを実際の住宅地図上に書き込むことで、地域を面で把握する有効な手段です。マップを用いることで、なにげなく行われている見守りから、つながりのない人まで、さまざまなものが見えてきます。

前半は講師の片桐さんから、マップづくりを通して見えてきた地域の見守りや支え合いの様子、そして「助けて」と言える環境をつくるにはどうすればいいか、駒ヶ根市の実例を交えて紹介してもらいました。

後半は、実際の住宅地図を用いて、住民支え合いマップづくりを体験。見守りが必要な人は誰か、どんな見守りができるかなど、グループに分かれて意見を出し合いました。



講師の片桐美登さん



住民支え合いマップを用いることで人のかかわりが見えてきます。



住民支え合いマップづくりを体験。関わりやつながりを地図上に書き込んでいきます。



演習で用いたマップは駒ヶ根市のある地区でした。実際の地図を用いるからこそ見えてきます。



「自分の地域でやってみよう」「支援者のマップをつくってみたい」との感想も。